

こんにちは！ MED 村立東海病院 であ



小児科を紹介します

寒い日が続きますが、梅の咲く季節となり、春の足音も感じられる時期となりましたね。その一方で、風邪症状、インフルエンザ、ノロウイルスなどがはやっています。今回は当院小児科について、小児科科長の川井伸が紹介します。

地域の一般小児科を担っています

私たち村立東海病院小児科は、東海村周辺の子どもたちの健康に何か問題があったとき、まず最初に相談できる小児科の一つとして活動しています。病院での一般外来、予防接種・乳幼児健診外来の他に、地域保健活動(乳幼児集団健診・予防接種)や学校保健活動にも、地域医療を担う一員として参加しています。

普通の風邪の中に

小児科一般外来を訪れる子どもの多くは、急性ウイルス感染症——いわゆる普通の風邪の患者さんです。人間に本来備わっている、病原体と戦う力で自然に回復できる状態であれば、病気への対応は看護中心でよく、医療の出番はさほどありません。しかし、患者さんによっては、さらに病状が悪化し続けたり、風邪ではない病気で具合の悪い場合もあります。

5日以上続く発熱や犬がほえるような深い咳、視線が合わない、おしっこが出ない、理解できないおかしなことを言う等の症状は要注意です。特に自分の状態をうまく表現できない乳幼児の場合は「母乳を吸う力が弱い」「何となく普段と違う」「風邪にしても元気がない」といった、いつもその子を見ている養育者の観察力が重要になります。

そのような患者さん・養育者の訴えに耳を傾け、風邪におさまらない病気を見逃すことがないように、適切に医療を行っていきたくと考えています。

いつまでが小児科？

子どもの主な特徴として、成長期にあるということが挙げられます。身体的には、生まれた時との比較で、身長で3倍以上、体重で15倍以上にも成長します。精神的な発達も生涯にわたり続くものですが、特に子どもの時期の発達には重要なものがあります。小児科は発達の過程にある子どもを診ていく所であり、小児科医はそのためのトレーニングを積んでいます。少なくとも身体的成長が続いている間は、できるだけ小児科とお付き合いしていただけたらいいなと考えています。

多くの方にとって小児科とお付き合いは、風邪にかかった時と、予防注射で痛い思いをする時くらいかと思えます。けれど、その短いふれあいの中でも、子どもの健やかな成長を見守り手助けしていきたくと私たちは考えています。

村立東海病院小児科科長 川井 伸

健診室からのお知らせ

今回は、人間ドックのオプション検査「甲状腺検査」を紹介します。

【甲状腺検査】

甲状腺とは、喉仏の下方にある内分泌器官のことで、体内のエネルギー代謝や自律神経をコントロールする大切なホルモンを分泌しています。

最近、発汗が異常に多い、脈拍が急に速くなった、食べても体重が減少する、全身にむくみ(浮腫)が出てきた等の症状がある場合、甲状腺異常の可能性ががあります。

甲状腺検査では、甲状腺がどのくらい機能しているのか、分泌機能に異常がないかを調べるために、血液中の甲状腺ホルモンを検査します。費用は5,660円です。ご希望の方は、人間ドックの申込時に申し出てください。

●問い合わせ 村立東海病院健診直通(☎282-2614)

問い合わせ●村立東海病院(☎282-2188)、保健年金課地域医療担当(☎287-0899)